

明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

代表取締役

(有)あっぷるふぁーむ

山本雅己さん

「与謝野町の優しい自然の恵みを多くの人と分かち合いたい。人に優しい自然に優しい農業にこだわって取り組んでいる」と話すのは、与謝野町滝地区の有限会社「あっぷるふぁーむ」代表取締役の山本雅己さん(54)。

同地区は大江山をはじめとする山並みに抱かれ、野田川流域の肥沃(ひよく)な平野に農地が広がる。

この恵まれた自然の中で、水田転作対策としてオーナー制のリングの観光農園を運営していた6人が集まり、同社を1993年に設立した。現在も設立当時の6人の仲間と共に同社を支える。

設立当初は6人が農地を出し合

大規模、新作物に挑戦



▶ハウスでトマトの出来を確認する山本さん

い、水稻や15棟のハウスで野菜栽培に取り組んでいたが、今は54畝の農地を請け負い、水稻23畝、95棟のハウスで、ナス、トマト、キュウリなど多品目の野菜を周年栽培する府内でも有数の大規模経営となっている。

現在、23人の幅広い年齢層の従業員を雇い、トマト、キュウリ、九条ねぎ、タマネギ、ナス、ブロッコリーといった野菜以外に、イチ

ゴ、スイカ、白大豆、キャベツの採種など、多岐にわたる品目の栽培に取り組む。

米は「丹後コシヒカリ」の他、おからを主原料とした肥料を使う、与謝野町産コシヒカリ「京の豆っこ米」を栽培し、自然循環農業に力を入れる。野菜はJAを通じ地元スーパーなどで販売している。

山本さんは、2012年4月に

2代目の代表取締役役に就任し、「やりたいことがいっぱいあった。あれもこれもと取り組んでいるうちに今の栽培品目と経営規模になった」と新たな品目を積極的に導入している。

一方で、「若

手の担い手を育成しないと地域の農業が続かない」と掲げ、人材の育成を課題に、京都府立農業大学の卒業生を従業員に受け入れ、法人の後継者として育ててくれることを期待している。

「地元与謝野町のクラフトビール醸造事業に使うホップの栽培や、シイタケの栽培を増やすなど、新しい作物へもどんどんチャレンジしていきたい。自社でできない部分は地元の加工場に加工委託するなど連携を強め、道の駅での直接販売や海外への輸出なども考える。与謝野町のファン、あっぷるふぁーむのファンを増やす取り組みを今後も進めて行く」と山本さんは力強く語る。

■法人所在地 与謝郡与謝野町字滝907。(電)0772(43)2097。

■法人概要 1993年4月設立。取締役4人、監査役1人、従業員23人、パートタイマー6人(農繁期)。経営面積 54畝(パイプハウス95棟で多品目野菜栽培、水稻23畝)、農作業受託20畝。農機具 トラクター7台、コンバイン3台、田植機1台、米乾燥機5台、米調製施設一式。